

# AMDAの小児病棟建設

## 日本政府が8万4000ドル

在ミャンマー大使館で調印式

【ヤンゴン18日＝比嘉一隆】

NGOのAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）が進めているミャンマー・メッティーラ地区での小児病棟建設計画に対し、政府は草の根無償資金として八万四千ドル（約一千万円）を提供することを決め、十八日、ヤンゴンの在ミャンマー日本大使館で調印式を行った。同資金は日本のODA（政府開発援助）の一部から、国内外のNGOのプロジェクトに拠出される。政府は昨年度だけでミャンマーに対し、二十件、総額約百九万ドルにのぼる援助をしている。

調印式には、朝海和夫大使、AMDAから現地に駐

在している大森佳世コーディネーター、医療活動をしてきた吉岡秀人医師らが出席。朝海大使は「国民レベルの人と人とのつながりができる活動になることを期待している」と話した。二十日にはメッティーラ

で起工式が行われる。小児病棟は一年後に完成する予定で、その後は日本人医師を派遣したり、ミャンマー医師を日本に呼んで研修を受けてもらうなどソフト面の運営に力を入れる方針。募金に関する問い合わせは、AMDA本部内の「ミャンマー子ども病院支援委員会事務局」（☎086・284・7730）へ。